

学校教育目標	「健やかな心と体 夢に向かってみんなで学ぶ みたけの子」 ○学習の基礎基本を身につけ、自ら進んで考え、学び合い、よりよく解決する力を育てます。(知) ○お互いを認め合い、あたたかい言葉がけを大切にし、思いやりのある豊かな感性を育てます。(徳) ○健康な心と体を自ら育む態度を養い、安心安全への意識を高め、たくましく生きる力を育てます。(体) ○夢や目標を持ち、人や地域、社会に進んで関わり、社会の一員として自ら行動する力を育てます。(公) ○多角的な視点に立ち、持続可能な社会の実現へ向けたコミュニケーション能力、創造力、行動力を育てます。(開)					
学校概要	創立 50 周年	学校長 谷口 佐智子	副校長 小笠原 希	2 学期制	一般学級：18	個別支援学級：5
	児童生徒数： 554 人	主な関係校： みたけ台中学校・鉄小学校 (もえぎ野小学校・青葉台小学校・鴨志田第一小学校)				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	みたけ台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈情報活用能力〉〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉 開校50周年行事 (R8) 幼保小連携推進事業校 (R6～R8) 人権推進校 (R7～R8) 食育推進校 (R7～R8)	みたけ台中学校 みたけ台小学校 鉄小学校	社会を生き抜く力を育成するために、『自ら考え』『自ら学ぶ』能力を身につける子ども ・9年間の子どもの成長を見通した小中連携を推進する。 ・子ども像を共有しながら、児童生徒理解を深めるための定期的な会合を設定する。 ・家庭や地域および関係機関との連携を推進し、児童生徒が社会を生き抜く力の育成を行う。

中期取組目標	○「あたたかい学校」「誰もが安心して豊かに生活できる学校」「子どもも大人も、みんなで成長できる学校」にするため、「チームワークとコミュニケーション」を大切にします。教育活動を進める中で、子どもの声を取り入れていきます。 ・「子どもの個性を大切にした個別最適な協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを推進します。 ・「基本的な生活習慣」「きもちよいあいさつ あたたかいことば」をベースに、心のゆとりや安心感がもてるようにします。 ・人と人との繋がりをもち、世界を広げ、社会に開く、子どもの可能性を広げます。 ・自身を見つめ、なりたい自分像を創り出す中で、夢に向かって健やかな学校生活を送る機会を増やします。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①教育課程全体で育成を目指す資質・能力の明確化し、個別最適で協働的な学びを推進する。子どもが自分の学びを判断して選択しながら学習を進められる学習の工夫をしていく。(重点研究) ②子どもの主体的な学びを深められるよう、「主体的・対話的な深い学び」となる課題解決的な授業づくり・授業改善を行う。(図書館教育の充実(情報活用能力の育成と読書推進)) ③幼保小中の交流や連携・協働を大切にし、子どもの育ちや学びの連続性を重んじ、子どもが安心して学ぶ環境づくりをする。(小中連携・幼保小連携推進事業)
担当	学習指導部・授業改善支援部	
徳	人権教育	①豊かな心の育成を目指し、道徳科を要として学校のエデュケーション全体を通して行う道徳教育や人権教育を推進する。道徳科公開授業を年一回以上実施する。(道徳教育・人権教育推進) ②たてわり活動や人権に繋がる学習を通して、他者理解をより深め、自分や友だちのよさを認め合う子どもの育成を目指す。(異学年・異校種交流、自己肯定感・自己有用感) ③みんなで子どもを見て育てる校内風土を構築し、子ども自らの声を十分に聞いて、安心して学べる学校づくりをする。('せんせいあいのね'・'あのね週間'・'あのねアンケート')などの継続実施)
担当	児童指導部・特別支援部	
体	健康教育	①子ども一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、自己の体力を知って進んで運動に親しんだり、規則正しい生活を送ったりすることができるようにする。(健康教育・安全教育) ②子ども主体で計画された運動集会や運動週間を行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。(運動委員会活動・一校一実践の取組) ③地域の豊かな財を活かし、子どもが自らの健康に関心をもって健康的な食生活を送ることができるように、食に関する指導の充実をはかる。(食育推進)
担当	行事安全部	
公開	キャリア教育 地域連携	①「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして、子ども自身の姿や成長を自己評価でき、将来への夢をもてる子どもを育成する。(自分づくり(キャリア)教育) ②学校運営協議会・地域見守り懇話会など、地域の方との情報交換を通して、通学路などの安全対策の充実を図る。開校50周年に向けての子どもが発信する取組を行う。(地域とともに歩む学校) ③子どもが自ら地域と繋がることを大切にして、地域で体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら、自己有用感を高めるようにする。(特色ある学校づくり・社会に貢献する学校)
担当	教務部・行事安全部	
いじめへの対応		①子ども会議などの話し合いの機会を設定し、子どもが主体的に未然防止の取組を考え実践する。関係機関との連携を図ったり、子どもの本音を引き出せるようなアンケートの工夫をしたりする。 ②児童理解・いじめ防止に関する研修を定期的に実施する。(安心して学べる学校・支え合う風土づくり) ③学校と保護者は児童の成長を支えるパートナーであることの基本認識に立ち、学校からも情報発信をして協力関係を構築する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①チーム担任制を行い、教材研究の時間の確保により指導力をつけると共に、みんなで子どもをみていくための情報共有をする。(学び続ける教職員) ②メンターチームを組織し、継続した活動の中で、若手が支え合って、育っていく校内サポート体制を整える。 ③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図り、組織的な働き方に繋げる。(組織や体制の見直し)
担当	教務部・メンターチーム	
特別支援教育		①児童理解や合理的配慮等に関する専門的な知識を深めるために、児童情報の共有や特別支援教育について職員研修の充実を図る。(特別支援教育) ②配慮を要する子どもへの支援を全職員で担い、特別支援教室の活用や関係機関との連携をして支援する。(校内支援体制) ③支援のねらいを明確にし、校内委員会での話し合いを通して、個別支援計画を活かし、交流および学習を行う。
担当	児童指導部・特別支援部	